

「同報系防災無線システムの低廉化に向けた調査検討会」

第1回調査検討会議事概要

日時：平成25年7月31日（水）14:30～16:30

場所：中国総合通信局 2階 第1会議室

○出席委員（11名） 敬称略

田野 哲（岡山大学大学院）

加藤 数衛（株式会社日立国際電気）

辻 克則（沖電気工業株式会社）

福江 朗（岡山県）

富田 正樹（浅口市）

池田 正（三菱電機株式会社）

石垣 悟（日本無線株式会社）

谷澤 亮太（日本電気株式会社）（椎木委員代理）

成澤 昭彦（パナソニックシステムネットワークス株式会社）

櫻井 稔（アイコム株式会社）

林 義也（中国総合通信局）

○事務局

総務省 中国総合通信局 無線通信部 企画調整課

中電技術コンサルタント株式会社

○配布資料

資料1-1 調査検討会開催趣旨(案)

資料1-2 調査検討会開催要綱(案)

資料1-3 調査検討会委員名簿

資料1-4-1 住民への災害情報伝達手段の現状

資料1-4-2 岡山県における防災行政無線の現状を踏まえての課題と要望

資料1-4-3 防災無線の高度利用技術等に関する調査検討報告書概略版

資料1-5 調査検討イメージ(案)

資料1-6 スケジュール(案)

資料1-7 調査検討会運営方法等(案)

資料1-8 作業部会の設置について(案)

資料1-9 報告書取りまとめ方針(案)

資料1-10 試験実施計画(案)

○会議次第

- (1) 開会
- (2) 中国総合通信局長挨拶
- (3) 委員委嘱及び紹介
- (4) 調査検討会開催趣旨及び開催要綱について
- (5) 座長の選出及び座長代理の指名
- (6) 同報系防災無線システムの低廉化に向けた調査検討にあたって
 - ア 住民への災害情報伝達手段について
 - イ 自治体ユーザーからの現状報告及び課題と要望
 - ウ 平成24年度本省調査検討概要の紹介
- (7) 議事
 - ア 調査検討の進め方について
 - イ 実地試験の進め方について
 - ウ その他
- (8) 閉会

○概 要

- (1) 開会
- (2) 中国総合通信局長挨拶（中国総合通信局長 齊藤一雅）

同報系防災無線システムの整備コストを安くすることで、市町村による整備の後押しをしたい。そのために具体的なコスト削減策の検討と検証を行いたい。特に、大雨や暴風時等でも確実に防災情報を聞くことができる戸別受信機をできるだけ多く配布できるよう、現行の方式を見直した同報系防災無線システムを適用することにより、外部アンテナの省略等、システム全体のコストを低減できるのではないかと期待している。
- (3) 委員委嘱及び紹介（資料1-3）

委員および事務局の自己紹介を行った。
- (4) 調査検討会開催趣旨及び開催要綱について（資料1-1、1-2）

総務省では同報系防災無線システムを自治体が導入するに当たり、各家庭等へ配備する戸別受信機のコストが課題となっていると認識している。本検討会の主旨は、実地試験を通じて、現行方式とは異なるデジタル方式（4値FSK等）を採用した場合の戸別受信機の整備コスト削減効果を明らかにすることが確認された。
- (5) 座長の選出及び座長代理の指名

事務局案として、田野委員を座長に提案し承認された。
田野座長より加藤委員が座長代理に指名された。

(6) 同報系防災無線システムの低廉化に向けた調査検討にあたって

ア「住民への災害情報伝達の現状」総務省中国総合通信局林委員（資料1-4-1）

イ「岡山県における防災行政無線の現状を踏まえての課題と要望」岡山県福江委員（資料1-4-2）

ウ「防災無線の高度利用技術等に関する調査検討 報告書(概略版)」

日立国際電気加藤委員（資料1-4-3）

についてそれぞれ説明があった。また、総務省総合通信基盤局鈴木康介氏より、総務省本省としての同報系防災無線システムの低廉化に向けた検討方針と、そのなかでの中国総合通信局における本調査検討会の取り組みの位置付けについて紹介があった。この後、以下の質疑があった。

○昨年度の調査検討で試算された戸別受信機の価格帯について

⇒メーカーによって幅があるが、アナログ並みか若干安くなる方向と見込まれている。詳しくは報告書に記載されている。

○メーカー間の互換性についての技術的な見通しについて

⇒今回の技術検証の後、情報通信審議会で方式が認可されれば、標準化が進められると考えられ、民間規格のなかで相互互換はある程度図られていくと考える。

○市場への投入時期について

⇒情報通信審議会の答申を仮に年明け早々とした場合、これまでの例からすれば、ARIBの作業が1年程度、その後に市町村等での実施設計が必要であるため、自治体での本格導入には少なくとも2年以上かかるのではないかと推測される。

(7) 議事

ア 調査検討の進め方について（資料1-5、1-6、1-7、1-8、1-9）

事務局から、調査検討の概要、スケジュール、運営方法、作業部会の設置、報告書とりまとめ方針について提案され確認された。

作業部会の部会長には田野座長から加藤座長代理が指名された。

イ 実地試験の進め方について（資料1-10）

試験場所：岡山県浅口市

試験内容：同報系防災無線システムとして、4値FSK方式、QPSK方式と現行の16QAM方式の実験試験局を用いて、戸別受信機の外部アンテナ等の種類を変えて受信機の所要入力電圧、BER等を測定し、アンテナの簡便化等に関する検証を行う。

質疑

○測定項目と測定結果のとりまとめについて、昨年度の本省の試験において行った測定方法、測定項目、とりまとめ等に合わせたほうが良い。

また、メリット評価については、過去に取りまとめされた信越総合通信局での判断基準が参考になると思われるので、検討をお願いしたい。

⇒そのように実施したい。

○試験においては、再現性について留意する必要がある。周りの建物の状況も併せて調査し、減衰の目安を確認できるようにしておく。屋外と屋内のダイポールの高さを合わせて、どのくらいの差があるか確認する必要もあるだろう。

また、壁面の構造についても記録する必要がある。

⇒留意して実施したい。

<事務局から今後のスケジュールについて>

・第2回検討会の開催時期は12月～1月を予定。詳細については各委員とメール等で調整を行ったあとで決定。

(8) 閉会